

使用製品

歯 - クラウン - ニケイ酸リチウム - 保持形態のない形成 - Multilink Automix

- マルチリンク オートミックス**
幅広い症例に対応する化学重合ベースのデュアルキュア型接着性レジンセメントです。



- プロキシット Fフリー**
フッ化物無配合のクリーニングペーストです。



- オプトラスティック**
接着性チップを持つ補助インスツルメント。修復物の保持に使用します。



- モノボンド エッチ&プライム**
ガラスセラミックス用セルフエッチングプライマーです。ガラスセラミックス接着面のエッチング、プライミング、試適後のクリーニングが1ステップで行えます。



- オプトラダム**
治療部位を防湿するための3Dラバーダムです。



- リキッドストリップ**
硬化時、酸素と触れることで形成されるコンポジットレジンの未重合層を抑制するためのグリセリンゲルです。



- オプトラポール**
コンポジットレジンを仕上げ研磨する、1ステップの研磨バーです。



- Fluor Protector (日本未導入)**
Fluor Protector (日本未導入) is a protective fluoride varnish for desensitization and caries prophylaxis.



フローチャート Multilink Automix

歯 - クラウン - ニケイ酸リチウム - 保持形態のない形成 - Multilink Automix

1 テンポラリーの除去



仮封材を除去します。必要に応じて、支台歯に残存した仮封材をポリッシングブラシとフッ化物およびオイルフリーのクリーニングペーストを使用して除去します(プロキシット F フリー等)。その後、支台歯を水分およびオイルフリーのエアで乾燥します。

2 修復物の試適



最終修復物を試適します。この時、修復物のシェード、適合、咬合状態を確認します。



審美性のために、修復物のシェードをマルチリンク オートミックス **Try-In** ペーストで確認します。その後、Try-Inペーストを水洗で確実に除去し、水分およびオイルフリーのエアで乾燥します。

3 修復物の前処理



接着面にモノボンド エッチ&プライムをマイクロブラシで20秒間スクラブしながら塗布します。その後、40秒間反応させます。



その後、モノボンド エッチ & プライムを強圧で水洗し、オイル、水分フリーのエアードライで10秒間乾燥します。

4 支台歯の防湿と清掃



治療部位の防湿をオプトラダムで行うか、防湿用パッドや排唾管を使用して確実にいきます。



支台歯をポリッシングブラシと、フッ素およびオイルフリーのクリーニングペーストでクリーニングし (e.g. プロキシット F フリー)、水洗します。その後、水分およびオイルフリーのエアードライで乾燥します。この時、乾燥しすぎないように注意してください。

5 マルチリンク プライマーA+Bとマルチリンク オートミックスの塗布



マルチリンク プライマーA+Bをマイクロブラシで混和し、接着面全体に塗布します。エナメル質から塗布を開始し、30秒間スクラブします。



余剰のマルチリンク プライマーを「」、液が波立たなくなるまで強圧でエアブローします。プライマーは、化学重合タイプなので、光照射は必要ありません。

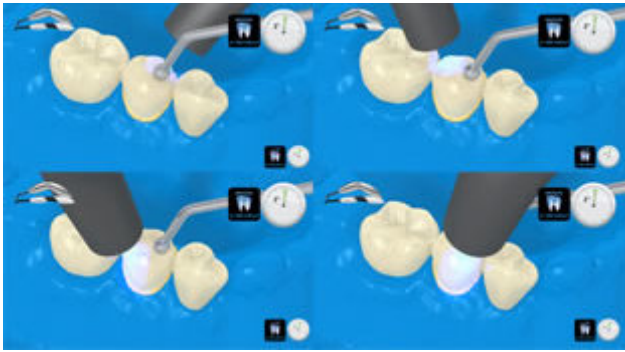


マルチリンク オートミックスをオートミックスシリンジから押し出し、適量を修復物の接着面に直接塗布します。

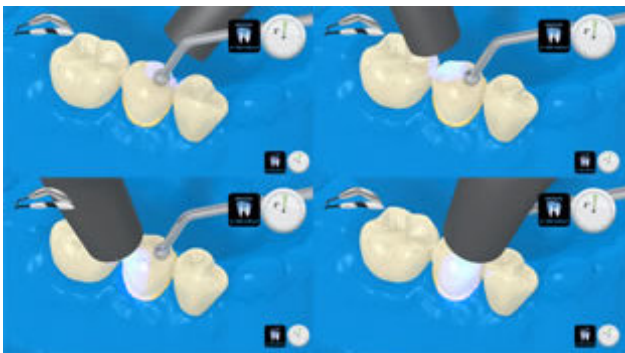
6 修復物の装着と余剰セメントの除去



修復物を装着し、硬化まで軽い一定の圧力で圧接します。



4方向（近心舌側、遠心舌側、遠心頬側、近心頬側）から最大10mmの距離で光照射器を使用し余剰セメントを光重合します。



光量約650 mW/cm²: 照射時間 3秒 / 1面 - ブルーフェーズ LOWパワー等
 光量約1,000 mW/cm²: 照射時間 1~2 秒 / 1面 - ブルーフェーズ Style または ブルーフェーズ HIGHパワー等



ゲル状に半硬化した余剰セメントはスクレーパー等で簡単に除去できます。



一般的なコンポジットレジン同様、マルチリンク オートミックス にも酸素による未重合層が形成されます。これを抑制するために、余剰セメント除去後、修復物マージンをグリセリンゲル/エアバリア材（リキッドストリップ等）で速やかに覆います。



その後、マージンに沿って、多方向から20秒ずつ（約1,100 mW/cm²）光照射します。オペーク色、つまり光が透過しにくい材料の場合は、化学重合による硬化をお勧めします。



リキッドストリップを水洗し、ラバーダムを除去します。

7 仕上げ



隣接面は、研磨用ストリップスを使用し、仕上げ研磨を行います。咬頭嵌合位および機能運動時の咬合関係を確認し、必要があれば調整します。マージン部は、研磨バーもしくはディスクを用い研磨します（オプトラボル等）。

8 フッ化物塗布



A thin film of **Fluor Protector** (日本未導入) is applied with a Vivabrush or brush and distributed evenly. The varnish is dried with an air syringe.